

## タウンミーティング記録 未来へ向けて 今、ここから

日 時 令和6年8月31日(土) 午後2時～3時30分  
場 所 エステスクエアふじみ野集会所2階 (エステスクエアふじみ野町会)  
参加者 17人



### 主な意見等

参加者 来年4月から東台小学校が統合されてなくなります。補助金を活用して作っているのですが、30年は建物を用途変更できないと聞いたことがあります。どうなるのでしょうか。

市長 東台小学校は児童数が非常に少なく、1年生から6年生まで単学級で、来年には100人をきってしまうのではないかとされている状況です。元々は、東原小学校のマンモス化の解消のために合併後に作られた学校ですが、地域の方にもご参加いただいて何度も説明会を開催し、東原小学校に統合していこうということになりました。

国からの補助金、また合併特例債を活用して作った学校でもあり、当時のお金で約40億かかっています。ご心配いただいた国からの補助金ですが、幸いなことに最近制度が変更になり、用途変更が可能になったため、補助金は返還しなくてよくなりました。今後の学校の建物ですが、市街化調整区域ということもあり、20年間は学校を廃止せずに建物は残し、学校開放という形で地域の方で活用していただきたいと思っています。

参加者 町会の役員が高齢化していて、若返りを図りたいのですが、何かいい方法はありませんか。

市長 先日、出席させていただいた自治組織連合会の総会でICT化、DX

の推進についてかなりご意見が出たことから、デジタル化の補助金を出すことを決めました。一例ですが、役員の方が ICT に詳しくなかった場合は、若者の力を借りて進めていくのはどうでしょうか。若者にやり方を教えてもらいながら連絡手段をメールやチャットに変えていくなどが考えられるかと思います。また先日、タウンミーティングで若い方からご意見をいただきました。その方はこれまで自治組織を敬遠していたそうですが、ボランティアで被災地に行ってから考えが変わったそうです。どの現場でも地域の人たちが一緒になって汗を流していて、万が一の時は、同じ地域、同じ建物の人たちが助け合わなければいけない、地域のつながりが非常に大きいということをまざまざと知らされたそうです。そして、若い人たちが自治組織に加入してくれるよう、市として力を入れてほしいということをおっしゃっていました。若い方からいただいたご意見ということでお伝えさせていただきます。

参加者 マンションの近くに親水公園がありますが、どの公園も禁止事項があります。自転車の乗り入れ禁止や、バーベキュー禁止といったことが書いてあります。行政としては管理上難しいのは分かりますが、禁止事項ばかりだと公園も活用されにくくなっていってしまうと思います。トイレも老朽化していて、改修を検討していただきたいです。

市長 当初は、まわりに住宅がなかったことから、バーベキューが認められていたようですが、その後、近隣の方から洗濯物ににおいがつくということで苦情があり、バーベキューが禁止になってしまったようです。市内には大小合わせて 160 くらいの公園がありますが、その大半はボール遊びが禁止です。一昨年、こどもの未来を育む条例をつくり、それを基に自治会長さんや公園愛護会の方、子どもたちも参加してワークショップを開催し、福岡中央公園の一角でボール遊びができるようにしました。日中は、ベビーカーの親子連れの方やご高齢の方優先の憩いの場として、放課後や土日の日中は子どもたちがボール遊びができるようにするなど、危ないからと一律に禁止するばかりでなく、地域ごとにローカルルールを作って、何とかやれる方法を考えていきたいと思います。トイレの件はご要望として持ち帰らせていただきます。

参加者 自治組織が市にとってどのくらい大切なものなのか、私自身も関わってみて理解することができました。加入の話をする、どの方もど

んなメリットがあるのかという話になります。毎年、加入促進の目的で窓口の協働推進課から、のぼりやパンフレットの必要数を聞かれますが、うちはもらったことはありませんし、それが加入につながるとは思いません。もらう、拾う、タダこれがひとつでも欠けると、人は集まらないと思います。うちでは、町会を立ち上げたときに町会費を集金しましたが、同額の消火スプレーを差し上げました。町会費を無駄にしたと思われるかもしれませんが、町会に入っていた方のためにイベント等をすれば理解していただけます。市役所の職員は前例踏襲の風土が強い傾向があると思いますが、若い職員が自由な発想で考えれば、色々なアイデアが出てくると思います。ぜひ今の体質を変えていただきたいと思います。

市長　私は、職員に対して常々新しい発想でチャレンジし続けてほしいと言ってきましたが、それが形としては表れてきていないというのが実態です。新入職員には、市役所には早く慣れてほしいが、市役所色には染まらないでくれという話を入庁式で常にしています。私自身の経験で、前に商店経営をしていて、中にはディスプレイがお客さんからどう見えているのか、外に出て見てみなければ分かりませんでした。同様に市役所窓口のカウンターの中にいただけでは見えないこともあります。職員には、待合のベンチに実際に座って、同じ目線の高さからキャビネットの上の書類の山や折れたブラインドがどう見えるか確認してもらいたいと伝えています。市役所は職員の対応が不満だったとしても、他を選べません。市役所の常識は市民の非常識ということは常々伝えていますが、今後は市民の方からご意見が出たということで一層の風土改革を進めていきたいと思っています。